

教材名（活動名） 屏風を愛で、お茶を飲み、味わう	学 校 名	清水町立清水中学校
	学年・人数	1・2・3年 （626人）
	教 科 等	美術科
実施時期 4月中旬～下旬	授 業 場 所	第一美術室
	連 携 機 関	MOA 美術館
ねらい 尾形光琳の「紅白梅図屏風」について、お茶を飲みながら鑑賞することを通し、作品のよさや美しさを味わい、理解を深めるとともに、お茶を飲むことの効果やよさを実感することができる。		
学習（活動）内容 1 尾形光琳「紅白梅図屏風」（実寸大のレプリカ）を飾り、その作品を眺めたいと思った位置に座る。 ・できるだけ近くで見たい。・遠くから全体図が見える位置に座ろう。 2 淹れ立てのお茶を飲みながら、作品の鑑賞をする。 ・ほっとする。・お花見みたい。・和む。・いいねえ。・おいしい。 3 季節や天気など、絵から感じ取れることについて話し合う。 ・梅の花かな？桜かな？・真ん中に川が流れているな。 ・川の模様が水の波紋みたいだな。雨がふっているのかな。 ・梅のつぼみがたくさん付いているから、まだ寒そうだな。 (作品についての詳しい鑑賞を行う。) 4 お茶を飲みながら鑑賞すると、どんなことを味わえたのか感想を交流する。 また、日本人にとって「美しさ」とはどんなことを指すのか考え、話し合う。 ・お茶を飲みながらだと、本当の美しさを感じられる。 ・お茶を飲むと、心が和む、安らぐ。それが美しい。 ・鑑賞しながらお茶を飲むことで、楽しむことができる。 ・お茶の渋さが絵の渋さと繋がる。 ・日本の絵を楽しむために、お茶を飲むことは効果的であると思う。 ・お茶を飲みながら絵を見ると、集中して見る事ができた。 ・日本人の考える「美しさ」とは、絵や物だけでなく、それをひきたてる空間も含めていうのではないかと思います。		
成果 ・お茶を飲みながら鑑賞することで、作品だけでなく、日本文化である「もてなしの心」に美があるという考えに、生徒が気付きやすくなった。 ・和みながら見ることで、「ふとしたときに感じる美しさを見つけやすくなった。」という感想が多くみられた。		
留意点 ・「お茶を飲んで楽しかった。」で終わるのではなく、「お茶を出してもてなすことの美しさ」まで気付けるように、手立てを工夫することが求められる。		

教材名（活動名） 茶道教室	学 校 名	島田市立六合中学校
	学年・人数	1～3年 13名
	教 科 等	和文化教育
実施時期 平成27年12月2日	授 業 場 所	六合公民館
	連 携 機 関	茶道教室「一期会」

ねらい

- ・茶道体験を通して、お茶について知るとともに、和文化への関心を高める。
- ・伝統文化の体験を通して、礼節やマナー、「おもてなしの心」を大切にする心を育む。
- ・地域の方々から教えていただく体験を通して、地域と学校との連携を深める。

学習（活動）内容

1 学習の流れ

(1) 日本の「おもてなしの心」についてのお話を聞く

ア 掛け軸、花、茶碗、和菓子について

イ 本日使用する抹茶について

(2) 作法について指導を受ける

ア 茶室での所作について

イ お茶（茶碗）の扱い方について

(3) 実践

ア 茶碗を選び、指導を受けながらお茶をたてる

イ 心を込めてお茶を出す、いただく



2 生徒の感想

茶道は「和敬清寂」という言葉が本当にぴったりの日本の大切な文化だと思いました。礼儀作法を学び、慣れない正座で足がしびれるのをたえながら、日本独特の文化にふれあうことができました。お茶をたてる時、茶せんを細かく速く動かすのが楽しかったです。大きな泡ができてしまい難しかったです。教わりながら動きをスムーズにできるよう意識しました。また一つ一つの質問にとっても丁寧な答えを返してもらい、勉強になりました。あのようにとても落ち着いた時間を過ごせて嬉しかったです。また来年も参加したいし、皆にも体験してもらいたいです。

成果

- ・茶道体験を通して、お茶に親しむことができた。
- ・「おもてなしの心」をもってお茶を楽しむことにより、心の豊かさが得られることを体験できた。

留意点

- ・地域の団体の協力を得ることによって、より豊かな学習ができた。
- ・全学年に希望者を募り、また、次年度には別の生徒が体験できるよう配慮したい。